
雨上がり。

星桜なつき。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨上がり。

【Nコード】

N5216F

【作者名】

星桜なつき。

【あらすじ】

雨降りの日に出かけた私。通りかかった公園で……。

朝から降り続いていた雨は、私の期待などおかまいなしに降り続いていた。

「……晴れてくれればよかったのに」

しとしとという音がなぜか寂しさを連れてくる。
でも、どうしてだろう。そう感じたりするのって。

雨は生き物にとって命の恵みを与えてくれているというのに。
曇っていて、薄暗いから？
世界が重苦しく感じてしまうから？

「うん。今日はいいい日」

ネガティブなこと考えちゃ、だめだよな。
今日はそんな事を考えることなんてない。
私は自分にそう言いきかせて、お気に入りの赤い傘を差して、雨の中を歩いていた。

ふと、いつもの公園の前を通りすぎようとしたとき、小さな赤い傘が公園の中にあるのに気がついた。

「女の子、かな？」

公園に女の子がいるのは不思議な事ではないけれど、雨の中、ぽつんと一人で佇んでいたのも、気になった。
その小さな傘に近づいて話し掛けてみた。

「こんにちはっ」

黄色いスモッグを着て、傘と同じ赤色の長靴を履いた女の子。声をかけた私を一瞥したけど、またそのまま俯いてしまった。変な人だと思われたかな。

「ね、どうしたの？ 一人？」

「……」

そっか、立ったままだった。

私はしゃがんで、女の子の目線とあわせた。

「今日は雨が降っているね」

「……」

「遊べなくてつまないね」

「……」

「でもね、雨って、植物さん達のごはんになるんだよ」

「……」

優しく話し掛けてみたけど、女の子は俯いたまま答えてくれなかった。

「ねえ、雨、嫌い？」

「おねえちゃん……」

やっと答えてくれた。

「うん」

「わたし、あめ、きらい」

すねたように口を尖らせて。

「そう……」

「どうしてきょう、あめ、ふらなきやいけないの？」

「今日？」

「おてんきだったら、おとうさんとあそびにいったのに」

「そっか。それは、つらかったね」

そっか。雨の日が憂鬱に感じるのは、私も昔……雨の日で行きたかった所にいけなかったという、自分でも忘れてしまっていた記憶

の破片が、そう感じさせているのかもしれない。

「でも、またいつか、行けるよ」

「……。きょうがよかったの」

「どうして？」

「あのね、きょうね、わたしのたんじょうびだったの。だからおとうさん、ゆうえんちにつれていってくれるって」

半分なきべそをかいたような顔。

「きょう、誕生日なの？」

「……。うん」

「よかった。あのね、じつは、お姉さんも今日が誕生日なの」

「おねえさんも？」

「うん。今日、私が生まれた日。一緒だよ」

「ほんと？」

「ええ。今日は、私の誕生日なの」

「しのも、きょう、たんじょうびー」

「うん、しのちゃん、誕生日おめでとう」

「ありがとう、おねえちゃん」

張り合うように、可愛らしくなついてきてくれた。

「雨が降って、遊園地いけなかったけど、いい事があったよね」

「うん」

やっと笑顔になってくれた。

「志乃ー」

遠くで呼ぶ声がした。

「あ、おとーさんだー」

「うん」

「おとーさん」

たとたと父親らしい男の人にかけてゆく。とてもやさしい目をした人だった。

「志乃、今日は遊園地いけなかったけど、家でみんなでパーティーだぞ」

「ぱーてぃー？」

「うん、望くん達みんなが来ているぞ」

「ほんとー？」

「ああ。さ、いこうか」

「うんっ」

そして、私のほうに向く。

「おねーちゃん、またねー」

「うん、ばいばい」

私を真似するように可愛く手を振っていた。

父親らしい人も会釈をして二人、雨の中去っていった。

私はふたたび、雨の中を歩き始めた。

誕生日。自分が生まれた日。

そんな日に、新しい出会いができた。

きつとまた、この公園であの女の子と話ができる。

「うん、今日はいいい日」

でも、私も、誕生日に祝ってくれる人がいてくれたら、私、その人を好きになっってしまうかも。

……なんてね。

空を見あげた。

雲の間から太陽の日差しが差し掛かってきた。

「傘は、もういらないかな」

雨上がり。

全てのものが、輝いて見えた。

（後書き）

ちよつと気分転換に短編を書いてみました。文学じゃないかも？
誕生日の出来事。皆様はどんな思い出がありますか？ ほんわかしていただけたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5216f/>

雨上がり。

2010年10月22日00時54分発行